

アダムの子: Son's of Adam

アダムの妻エバはみごもり、カインを産んで言った、「わたしは主によって、ひとりの男子を得た」。彼女はまた、その弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土地を耕す者となった。

日がたって後、カインは地の産物を持ってきて、主に供え物とした。アベルもまた、その群れの中から初子で肥えたものを選んで持ってきた。主はアベルとその供え物に目を留められた。しかしカインとその供え物には目を留められなかった。それで、カインは大いに怒って、顔を伏せた。そこで主はカインに言われた、「なぜあなたは怒るのか、なぜ顔を伏せているのか。良い事をしているのだったら、顔をあげられる。もし良い事をしていないのだったら、罪が門口で待ち伏せている。罪があなたを慕い求めるが、あなたはそれを治めなければならない」。

カインは弟アベルに言った、「さあ、野に行こう」。二人が野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかって殺した。主はカインに言われた、「あなたの弟アベルは、どこにいるのか」。カインは答えた、「知りません。わたしが弟の番人でしょうか」。主は言われた、「あなたは何ということをしたのか。あなたの弟の血の声が土地の中からわたしに叫んでいる。今や、あなたはのろわれて、この土地を離れなければならない。この土地が口をあけて、あなたの手から弟の血を受けたから。あなたが土地を耕しても、土地は、あなたのために実を結ばない。あなたは地上をさまよい歩く放浪者となる」。カインは主に言った、「わたしの咎は大きすぎて負いきれません。あなたは、きょう、わたしを地のおもてから追放されました。わたしはあなたを離れて、地上の放浪者とならねばなりません。わたしを見付けた人はだれでもわたしを殺すでしょう」。主はカインに言われた、「それゆえ、わたしは言う。だれでもカインを殺す者は七倍の復讐を受ける」。そして主はカインを見付ける者が、だれも彼を打ち殺すことのないように、彼に一つのしるしをつけられた。カインは主の前を去って、エデンの東、ノデの地に住んだ。

コメント: アダムとエバにふたりの子供が生まれ、カインとアベルと言う名前が付けられました。二人の職業が書かれ、彼らは神である主に供え物をしました。主はアベルの供え物に目を留め、カインの供え物には目を留められませんでした。目を留めるとは、重んじるとか顧みるとかの意味があります。目を留められなかったカインの供え物を、主は重要ではないとして軽く見られたようですが、なぜかはわかりません。供え物は動物でなければならないとか、初子でなければならないとか、いろいろ考えられますが、実際のところよくわかりません。しかし、新約聖書からひも解くことができます。ヘブル人への手紙 11 章 4 節「信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神に献げ、そのいけにえによって、彼が正しい人であることが証しされました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だと証ししてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって今もなお語っています。」【By faith Abel offered to God a more excellent sacrifice than Cain, through which he obtained witness that he was righteous, God testifying of his gifts; and through it he being dead still speaks.】ここから言えることは、アベルは信仰によって供え物をしたのに対して、カインは信仰によらなかったようです。主はカインに罪に関する話をされました。しかし、カインはその言葉を受け取らず、妬みによって、アベルを殺しました。アダムとエバは、それによって死というものがどういうものであるかを知ることになりました。それも自分の子供の死によって…。それは彼らに悲しみを与えました。主がカインに弟アベルのことについて聞いた時のカインの対応は、人の悪い心の面が現れているのではないのでしょうか。自分のしたことを隠そうとするその心です。しかし、主はすべてのことをご存じです。カインには言い逃れができません。主はカインに放浪者となると宣告されます。主はあわれみ深い方で、カインのことを聞き入れました。誰も彼を殺すことがないようにしるしをつけられたとあります。そのしるしが何であるかはわかりません。主は罪に対しては、容赦のない方です。人は自分の罪を解決しなければなりません。カインは主の前を去ってエデンの東にあるノデの地に住みました。カインは罪を悔いたでしょうか。カインに罪があるうちは、決してエデンに入ることはできません。主の前を去るとは、主と決別することです。現在、主の望まれることは信仰により主とともに生きることです。I テサロニケ 5 章 10 節「主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目を覚ましていても眠っていても、主とともに生きようになるためです。」【who died for us, that whether we wake or sleep, we should live together with Him.】主が私たちのために死んでくださったのは、私たちの罪を許し、罪のない者として神の前に立たせるためです。